

社会に出ることを心待ちにした児童がそろう学校



朝霞第二小だより



【学校教育目標】 進んで学習する子(知) 仲良く助け合う子(徳) 健康で明るい子(体)

〒351-0007 朝霞市岡3丁目16番13号 TEL048-461-0042 FAX048-467-4735
令和6年 7月 1日(7月号) 児童数 756名(6/26現在)

相手の気持ちをもっともっと理解しようとする

校長 宮腰 高子



1年生の育てている朝顔のつるがぐんぐん伸びてきています。それに気づいた子供たちは「わあ、また伸びている。」「○○ちゃんのが一番伸びているね。」「アサガオ頑張れ、アサガオ頑張れ。」とまるで絵本の世界のように語りあっています。自分がまいた種が大きく育つ姿を見て沢山学んでいるようです。

さて、先日の全校朝会では、パラ競泳で活躍している木村敬一選手の話をしました。彼は、2歳の時に失明されたそうです。私は彼のことをテレビのドキュメンタリーで知りました。水泳が大好きで、頑張り屋で、明るい。そんな木村選手を多くの人が支えています。そして、パラリンピック東京大会では見事、金メダルを手にすることが出来ました。

今回の全校朝会で用意したのは木村選手が金メダルを取って表彰台上がったときの写真です。新聞等で、取り上げられていました。大抵、金メダルを手に入れた選手の写真は、堂々と手を上げていたり、金メダルに頬を寄せていたりする写真なのに、彼の写真は泣き崩れている写真でした。

私は表彰式までは見ていなかったのですが、その写真を一目見て「ああ、素敵なおうれし涙だ」と胸が熱くなりました。しかし、記事を読んでそれ以上に感じるものがありました。その写真は金メダルを受賞され、国歌「君が代」が流れた時のもので、本人のコメントには、

「僕が唯一、金メダルを獲ったんだって、認識できる時間」と、ありました。

木村選手は目が見えません。だから、メダルの金も見えないし、表彰される様子も見えないのです。でも、自分のために「君が代」が流れた。これは目が見えなくてもはっきりと分かったのでしょう。観衆が称える声も聞こえていたことでしょう。木村選手はさらに、「ここは(涙)我慢しないでいかもしれないと思った」とコメントを加えています。いつも明るい頑張り屋の木村選手ですが、本当は涙を流したいときも有り、我慢して沢山努力してきたのでしょう。

この気持ちにより添いながらこの写真を改めて見ると、私が先程述べた「『ああ、素敵なおうれし涙だ』と胸が熱くなりました。」という言葉では表現しきれない気持ちになりました。この記事は切り抜き、保存しました。いつか子供たちと共有したいと思っていたのです。

話の終盤には、分かったつもりでいても、本当の思いを分かるのはとても難しい。でも、出来るだけ相手の気持ちを理解しようとする姿勢が大切だと話しました。そんな姿勢を育てるためにも、学校では話し合い等の関わり合いで考えを深めたり、子供たちの作品を掲示し、互いの考えや表現の良さを認め合ったりしています。「完璧な人はいないし、反対に全部だめな人もいない。お互いにわかり合って支え合っていける二小であってほしいです。」と締めくくりました。

本校は7月7日が開校記念日で、今年度は開校152周年を迎えます。明治6年東圓寺に岡小学校として開校したのが始まりとのことです。市内で最も歴史と伝統のある学校と言えます。長い時の流れの中で、保護者や地域の皆様に支えられ現在に至っています。今後も朝霞第二小学校をよろしく願います。

